



新しい除草剤の紹介と 除草剤の正しい使い方

平成15年度普及奨励ならびに指導参考事項の指導参考（過年度に実用化試験が完了しており、登録された薬剤）となり、平成15年度農作物病害防除基準・除草剤使用基準に記載された飼料作物に関する除草剤（サイレージ用とうもろこし1薬剤、草地更新時2薬剤）について紹介します。

サイレージ用

とうもろこしに対する除草剤

フィールドスター乳剤（S B-508乳剤）
による1年生イネ科雑草に対する効果

効果：土壌処理（播種後雑草発生前に処理）により、1年生イネ科雑草に対し、高い除草効果を示した。通常の気象条件では薬害は認められないが、著しい低温多湿条件下において、初期生育での葉の黄化や生育抑制になる場合（根釧農試、畜試）があった。

表1 除草効果

薬量	イヌビエ	スズメノカタビラ	メヒシバ
10	◎	◎	◎
12.5	◎	◎	◎
15	◎	◎	◎
比較薬剤	◎	◎	◎

注）除草効果：とうもろこしが出芽後1ヶ月前後における雑草残存量（生草重）の対無防除区比。◎は0～10%を示す（各場平均）。

薬量は製品ml/a。

比較薬剤はラッソー乳剤である。

使用基準については、表7を参照してください。（以下、各薬剤についても同様です。）

草地更新時における除草剤

ラウンドアップハイロード（MON-96A液剤）による耕起前のフキに対する効果

効果：殺草効果は比較薬剤（ラウンドアップ）

と同程度で（表2）、処理1～2ヶ月後のフキの再生はわずかであった（表3）。

表2 フキの処理10日後の殺草効果の発現

試験場所	薬 量		
	ラウンドアップ 60	ハイロード 80	ラウンドアップ 100
天北	+	+	++
滝川	++	+++	++
根釧	+++	+++	+++

注）薬量は製品ml/a。

＋：効果が認められるが葉全体に及ばない。

++：葉全体に及ぶが茎までは及ばない。

+++：葉茎全体に効果が認められる。

表3 フキの再生程度

試験場所	薬 量		
	ラウンドアップ 60	ハイロード 80	ラウンドアップ 100
天北	7	7	2
滝川	0.0	0.0	0.1
根釧	0.0	0.1	0.0

注1）処理10日後に刈取った株の1～2ヶ月後の再生程度。

2）薬量は製品ml/a。

3）天北は再生株%、滝川・根釧は株/m²。

サンダーボルト（NH-501フロアブル）

試験1：耕起前のギシギシ類に対する効果

効果：殺草効果は比較薬剤（ラウンドアップ）と同程度で（表4）、ギシギシ類の再生はほとんど認められなかった。

表4 処理10日後の殺草効果の発現

試験 場所	薬 量		
	サンダーボルト		ラウンドアップ
	7 5	1 0 0	5 0
天北	++~+++	++~++++	++
新得	+++	+++	++~++++

表5 掃除刈り時のギシギシの再生程度

試験 場所	薬 量			無処理
	サンダーボルト		ラウンドアップ	
	7 5	1 0 0	5 0	
天北	0.0	0.0	0.0	5.0
新得	0.4	0.0	0.0	—

注) 天北はギシギシの生草%、新得は株数(株/10m²)

表7 平成15年度除草剤使用基準

1) サイレージ用とうもろこし

商品名	薬剤名・成分量 作用型	使用法・時期 主な対象雑草	使用料(／10a)	使用 回数	注意事項
フィールドスター 乳剤(SB-508 乳剤)	ジメテナミド 76% 非ホルモン型移行生	土壌処理 播種後雑草発生前 v1年生イネ科雑草100~150ml 水100ℓ		1	処理後に著しく低温 多湿が続く条件下で は、生育が抑制され る場合がある

2) 草地更新用地

商品名	薬剤名・成分量 作用型	使用法・時期 主な対象雑草	使用料(／10a)	使用 回数	注意事項
ラウンドアップ ハイロード(MOM -96A液剤)	グリホサート アンモニウム 塩(40%)	雑草処理 フキの栄養成長期 ・春処理(5月中下旬)耕起の 10日以前 ・フキ 600~750ml 水50ℓ		1	フキの葉が大きくな りすぎないうちに処 理する。専用ノズル を使用する。
サンダーボルト (NH-501フロ アブル)	ピラフルフェンチ ル(ET-751) 0.19% グリホサートトリ メシウム 塩 28.5%	雑草処理 雑草の生育盛期耕起10日以前 ・雑草全般 500~700ml ・ギシギシ類 750ml 水50		1	刈取り後前植生の再 生を待って処理する。

除草剤の正しい使い方

良薬も使い方を誤れば、劇薬に変身します。誤った使い方は自分自身だけの被害に留まらず、周辺への影響も無視出来ません。

作物に対してOKか、使用後の家畜に対してOKか、使用時期、使用量は適切かなど、使用基準を良く確認し、注意事項も忘れずにチェックしましょう。

もちろん、散布時の服装や除草剤の保管についても万全を期してください。

試験2：耕起前の雑草全般に対する効果

効果：殺草効果は比較薬剤(ラウンドアップ)と同程度で、掃除刈り時には既存(前植生)の牧草やイネ科雑草はほとんどなく、発生した雑草は実生の広葉雑草であった。

表6 掃除刈り時の植生割合(天北、生草%)

薬 量	TY	WC	イネ科雑草	広葉雑草
5 0	7 1	3	0	2 5
7 5	5 3	4	0	4 3
ラウンドアップ	6 4	4	0	3 1
無処理	1 8	5	4 0	1 4

薬剤の使用法について不明な点があれば、最寄りの普及センターか、農業試験場にお問い合わせください。

しかし、望ましいのは除草剤を使わないことです。作物(牧草)に頑張ってもらって、雑草の侵入を1年でも遅らせるよう、日頃の草地管理に留意しましょう。

ロールを背負った牧草は、若死にし翌年は雑草の温床となるので、早目に除いてあげましょう！

(問合わせ先：研究部牧草飼料科 堤 光昭)